

第6学年 国語科学習指導案

日時 令和5年10月6日(金) 6校時

児童 6学年 18名

授業者 佐々木 豪

1 単元名 登場人物の生き方から、自分自身の生き方を考え伝えよう

2 学習材名 『海の命』(光村六年)

3 単元について

児童は、5年生で『なまえつけてよ』や『大造じいさんとガン』などの物語文の学習をとおして、叙述から登場人物の相互関係を捉え、中心人物の心情の変化を読み取る学習を行ってきた。また、6年生では『帰り道』の学習で、視点の違いから登場人物の人物像を考え、理解したことに基づいて自分の考えをまとめる活動を行ってきた。

本単元は、海を舞台に中心となる人物・太一の成長していく過程が描かれている。物語は6つの場面で描かれており、時間や人物、場所などによって場面展開がはっきりした構成になっている。太一の成長には、父や母、与吉じいさといった周囲の人々や父を死に追いやったクエの存在が大きく関係している。登場人物の言動から心情を想像するとともに人物の相互関係を捉え、人物の生き方や考え方を捉えさせたい。物語の山場では、直接的に登場人物の心情を描写した叙述が少なく、行動描写や会話文などから間接的に心情が示されており、様々な視点から想像を膨らませて読みを深めることができる。さらに、他者と自分の読みを共有したり比較したりすることで、多様な考えに触れ、より自分の考えを広げることができる。それと同時に、自分の生き方を見つめなおし、「命」や「生きる」ことについて考えるきっかけにもなると考える。

本単元に関わる主たる指導事項は、読むこと「エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。」である。本単元の最終的なゴールは、学習発表会において「海の命」を劇で表現することである。単元を通して学んだことや考えたことから自身の生き方を考え、表現方法を工夫して発表させたい。

指導にあたっては以下の2点に留意する。

手立て1に関わって

- ・今までの単元全体の学習の流れを想起させ、子どもの考えを生かしたゴールを設定する。
- ・振り返り場面で、「初めと比べて自分の考えが広がったことは？」や「何がきっかけで広がったの？」など、自分の考えの広がりとその根拠を問う。

手立て2に関わって

- ・対話的活動の有無や形態を児童に選択させることで、必要感のある活動を促す。
- ・発問を焦点化し、対話的活動の内容を明確にしたり、段階的に課題に迫ったりすることができるようにする。

4 単元の目標

○語句と語句との関係、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。

[知] (1) オ

◎人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。[思] C(1) エ

○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。[思] C(1) カ

○言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語句と語句との関係、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。 (1) オ	①「読むこと」において、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。C(1) エ ②「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。C(1) カ	①進んで登場人物の相互関係や心情を読み取り、学習課題に沿って、自己の生き方についてや劇におけるその表現方法を考えている。

6 単元の指導計画（全8時間扱い）

時	学習活動	◆研究に係わる手立て ・指導上の留意点	評価【 】[方法]
1	○全文を通読し、疑問に思ったことやこれから考えたいことなど、初発の感想を交流する。 ○物語の設定や展開を確かめる。	・時、場所、人物などを確認し、大まかな内容を捉えることができるようにする。	
2	○複数の問いを検討し、学習課題を設定する。 ○単元のゴールを共有し、学習計画を立てる。	・生まれた問いを分類したり、まとめたりすることで、学習の見通しをもつことができるようにする。 ◆これまでの学習のゴールを振り返り、子どもの考えを取り入れてゴールを設定することで、目的をもって読み進めることができるようにする。（手立て1）	
登場人物の生き方から、自分自身の生き方を考え伝えよう			
3 4	○描写をもとに、登場人物の人物像を捉える。 ○それぞれの人物が「太一」とどう関わっているかについて考える。	◆発問を焦点化し、話し合う内容を明確に示すことで、進んで対話的活動に取り組むことができるようにする。（手立て2） ・ロイロノートで人物関係図を作成し、それぞれの人物が「太一」に与えた影響の程度を考えることができるようにする。	【知①】登場人物の心情や人物像を表す語や語句を使っているか確認する。 [発言・記述]
5	○瀬の主であるクエと出会ったときの「太一」の心情を捉える。	・「太一」がクエを探し求めていたことがよく分かる1文にサイドラインを引き、「太一」の感情の高まりを捉えることができるようにする。	
6 本時	○物語の山場での、「太一」の葛藤と変容について考える。	◆対話的活動の有無や形態を児童に問い、話し合いに見通しをもつことができるようにする。（手立て2） ・ロイロノートを活用し、児童の考えを可視化することで、多様な考えに触れ、自分の考えを広げることができるようにする。	【思①】登場人物の相互関係や太一とクエの描写をもとに、太一が瀬の主をしとめなかった理由について考えているか確認する。[発言・記述]
7	○題名『海の命』とは何かについて考え、共有する。	・「太一」が理想とする漁師像についてや叙述の中で2回出てくる『海の命』の意味について考えることで、題名の意味に迫ることができるようにする。	【思②】登場人物の生き方や命について自分の考えをまとめ、他者と考えを共有して、自分の考えを広げているか確認する。[観察・記述]
8	○登場人物と自分を重ね、自分の生き方について考える。 ○単元を振り返って、学習をまとめ、劇における表現方法を考える。	◆単元を通して身についた力やその要因について振り返り、取り組んできた対話的活動を価値付ける。 （手立て1）	【主】読み深めたことから、自己の生き方や命について考え、どのように表現しようか進んで考えているか確認する。[観察]
時間外	○学習発表会の劇に向けて、読み取ったことをいかし、発表の仕方を考える。		

7 本時の指導

(1) 目標

人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

(2) 本時の評価と評価規準

人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。

具体的な子どもの姿	Bに至らせるための支援
<ul style="list-style-type: none"> 作者の文章表現の意図を読み取り、太一が瀬の主をしとめなかった理由について、登場人物の相互関係をもとに考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 人物相関図を振り返らせることで、太一に影響を与えた人物の生き方や考え方を想起させる。 対話的活動後、再度自分の考えを再構築する時間を設ける。

(3) 展開

	学習活動 ・児童の反応 <目的:>児童と共有する対話的活動の目的	◆研究に係わる手立て ・指導上の留意点【評価】〔評価方法〕
導入 3分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">瀬の主をしとめようとしたときの太一の心情を考えよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> 児童の問いから課題を設定し、関心を高める。
展開 35分	3 5の場面を音読し、内容をつかむ。 4 太一の「夢」を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 父を殺したクエに出会うこと クエを殺すこと 5 クエをしとめたいと思っていた太一の気持ちが変わった場面を見つける。 <ul style="list-style-type: none"> 水の中で太一はふっとほほえみ・・・ 「おとう、ここにおられたのですか」 6 太一がクエをしとめなかった理由を見つける。 <ul style="list-style-type: none"> クエを父だと思ったから 本当に父だとは思っていないと思う クエは海の命だと思ったから 与吉じいさの教えを守ったから 7 太一の心情が変わった場面での叙述の表現の仕方を比較し、太一の心情について考えを深める。<目的:比較、広げる> 8 自分の考えを再構築し、まとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 太一の考え方が大きく変わった部分が物語の山場であることをおさえる。 ◆発問を焦点化し、段階的に太一の心情を捉えることで、心情の変化を考えることができるようにする。(手立て2) 太一の複雑な心情に迫らせるために、同じ場面の2つの文章を比較させる。 ロイロノートのシンキングツールを活用し、太一の心の葛藤を全体で共有できるようにする。 ◆対話的活動の有無や形態を児童に問い、話し合いに見通しをもてるようにする。(手立て2) 人物相関図をもとにして、太一の決断に影響を与えた人物や出来事について考えさせる。 友達の意見を参考に、自分の見方・考え方を見つめなおす。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">【思】登場人物の相互関係や太一とクエの描写をもとに、太一が瀬の主を打たなかった理由について考えているか確認する。〔発言・記述〕</div>
終末 5分	9 学習の振り返りをする。	◆振り返りの視点を与え、学びの広がりや根拠を明確にして振り返りをする。(手立て1)

〔期待する振り返りの例〕

- 〇〇さんの考えを聞いて、太一がクエをしとめなかったのには、与吉じいさの教えが影響していると分かった。
- 〇〇さんの～という考えは、自分には思いつかなかった考えだったので、学びが深まった。
- 文章の少しの表現の違いで、人物の心情を表すことができるのだと思った。

(4)板書計画

課題

海の命

瀬の主をしとめようとしたときの太一の心情を考
えよう

何年も追いかけていた

しとめてやる 父のかたき

クエに向かってもう一度笑顔を作った。

「おとう、ここにおられたのですか。ま

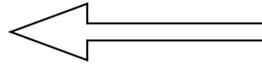
た会いに来ますから。」

こう思うことによって、太一は瀬の主を

殺さずに済んだのだ。大魚はこの海の命

だと思えた。

(山場)



(太一が瀬の主をしとめなかった理由)